

俺が言わずに誰が言う!

Text = Souichi Shimizu

第4回

ガソリンは高くていいのだ!!



Illustration = Kazuhiko Ihuku

ガソリンや軽油の暫定税率をどうするか、国会で侃侃諤諤だ。これについて、ドライバーであるあなたは思うか?

ひとつあるのは、スジ論。暫定税率は、貧しかった日本の道路を整備するために、期間を限定して上げたものだったはずだ。道路整備が進み、道路特定財源が余り始めた今、暫定税率はその根拠を失っているのだから、廃止すべきだというものだ。

民主党など野党は、このスジ論である。暫定税率が撤廃されれば、一気にガソリンはリッター 25 円ほど安くなるから、「緊急経済対策になる」とも言っている。

が、私は問いたい。緊急経済対策とは何なのかと。緊急というからには、一時的なという意味だろう。しかし、この原油高は一時的なものなのか? いずれ下がるという要素でもあるのか!?

そんなものはない。中国やインドの大成長が続く中、原油需要の逼迫が続くであろうことは明白。ガソリンは今後もずっと、高いまなのだ。

ならば、この原油高を克服する方法はただひとつ。節約である。原油をなるべく使わない経済体制を作ることだ。クルマで言えば省燃費技術などである。

今、緊急経済対策とやらで、ガソリンの値段を 25 円下げて得られるのは、ユーザーの経済的負担が、ごく一時的に軽減されることだけ。ガソリンが下がった分、省エネ意識も技術も遅れることになる。

つまり、ムダ金をバラ撒いて進歩を遅らせ、その分メチャクチャな国家財政をさらにメチャクチャにさせるだけなのだ!

もちろん、スジ的には暫定税率はおかしい。しかし、世の中、スジより実態の方が大事だろうが! スジで生きて行けるのか。だいたいこの暫定税率撤廃論の本音は、今ちょっとラクをしたいという庶民の心と、それに迎合する政治家が動いているというだけじゃないか!!

緊急対策として、高速料金の深夜割引率を3割から4割に増やすのは決定的だが、こんなのも、まったくのバラ撒きだ。東京タワーから札束をブン撒くようなもので、何の経済効果ももたらさない。トラック業者がほんの一瞬、一息つくだけ。過当競争の運送業界にあっては、この値下げ分を原資にした、運賃値下げ競争がすぐに始まって、一瞬で溶けてなくなってしまうだろう。そんなものに、貴重な道路特定財源を使わないでくれ!

今の安楽や、意味のないスジ論に固執すれば、大事なことを見失う。ガソリンは高くていい。いや、高いほうがいいのだ! たとえそれで運転の楽しみが高つこうとも、それよりはるかに大事なものがある。俺が言わずに誰が言う!

清水草一

1962年東京生まれ。一般誌の編集者を経てフリーライターとなる。その後はフェラーリをテーマとする多くの書籍 / DVD で注目を集め、現在も超多忙な日々を送っている。渋滞のメカニズムを研究するなど交通ジャーナリストとしても活躍中。愛車はフェラーリ 360 モデナとシトロエン エグザンティア・ブレーク。